

学番	中等3	新潟県立燕中等教育学校
----	-----	-------------

## 平成29年度 学校自己評価表

学 校 運 営 計 画				
学校運営方針	1 校是「Be Global!」のもと、地域に立脚しつつ地球的視野で活躍できる人材の育成に努める。そのために、確かな学力を身に付けさせるとともに、グローバルな視点の育成、豊かな人間性と健やかな身体の育成を目指す。 2 生徒・保護者及び、地域からの信頼を得られる教育活動を行う。			
年度の重点目標	具体的目標			
○中高一貫教育の実践と研究	・6年間一貫した継続的な学習指導の在り方を実践研究し、生徒一人一人の学力の向上と充実に努める。			
○知的好奇心の啓発と進路実現	・生徒の知的探究心を啓発し、教養を身につけさせるとともに、生徒一人一人の進路実現に努める。			
○地域の初等・中等教育の活性化と相互交流の推進	・他の中等教育学校と連携して学力の向上を図るとともに、その成果を地域の小・中学校に公開し、地域の教育全体の活性化を図る。			
○グローバル人材の育成を目指した体系的な教育活動の実施	・授業や学校行事、資格検定等の教育活動を体系的に展開するなかで、確かな学力を身につけさせるとともに、課題に主体的に取り組み、国際的な舞台で活躍できるグローバル人材の育成に取り組む。			
昨年度の成果と課題				
<p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>概ねA評価であった。平成29年度も、28年度の取組を継続し、地域に立脚しつつ地球的視野で活動できる生徒の育成を進める。</li> <li>各種学校行事をとおして、自己理解や自己分析を深めさせるとともに、6年間をとおした計画的、継続的な進路指導を進めることができた。</li> <li>人権教育・同和教育研修を定期的に行い、職員の意識高揚を進めることができた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各部会、教科、学年等の具体的方策について、平成29年度はさらに生徒の成長が具体的に見えるように評価の観点を検討し、実践する。</li> <li>生徒の学力向上と進路希望の実現のために、授業改善を進める。そのために、各種研究会や研究会へ積極的に参加する。</li> <li>特別支援教育の充実と不適応生徒への指導体制を確立させるために、学期に1回職員研修を位置づけ研修を積み重ねていく。</li> </ul>				
担当	目 標	具体的方策	評価	
教務部	6年間一貫した計画的な学習指導を行う。	全教科で6年間一貫したシラバスを作成し、学校全体の指導内容・指導計画を整理する。	B	B
	基礎・基本の着実な定着と学力向上のための諸条件を整備する。	授業時数を確保する。	A	A
		進路指導部と連携し、朝テスト、放課後講習、補習等の体系化を図る。	A	
		前期課程における基礎学力診断の方策について検討する。	A	
		再考査の意義を再確認するとともに、定期テスト後の補充学習の充実に努める。	A	
授業力を向上する。	教科内、または教科を越えて、授業方法や実践例等について教員間で情報交換を行う。 生徒による授業評価を実施する。	A	A	
総合的な学習の時間の計画的な運営を図る。	学校行事、各学年行事、各種講演会を軸とした「総合的な学習の時間」を、年間計画に基づいて円滑に実施する。	A	A	
生徒	集団活動をとおして、調和のとれた心身の発達と個性の伸長を図る共生の精神と規範意識を育成する。	学校生活の様々な場面で仲間存在を認めながら、自分の行動を振り返る機会を設け、共生の精神を育む。	A	B
		社会のルールやモラルについて理解し、それらを自分のものとしてとらえ、行動する生徒を育成する。	B	
	交通ルールや服装について年間をとおして指導する。また、全校集会などの折に、学期に1回以上指導する場を設ける。	A		
学級活動をとおして生	個々が活躍できるような活動の場を設け、生徒の自己肯定感			A

指導部	生徒相互の理解を深め、共生の精神を育成する。	の涵養に努める。また、事後の評価や振り返りによって、次の活動への意欲を喚起する。 生徒会の諸活動では、集団の中で仲間とともに企画・実行し、他と協力して活動する力を身につける。それとともに、自ら課題を見つけて自主的に解決する能力を育てる。 学校生活の各種行事において、時と場に応じた言動に留意し、行動できる生徒を育成する。	A	A	
進路指導部	生徒の進路実現に向けて、生徒の学力向上に努力する。	センター試験受験者100%、5(6)-7(8)受験者100%を目指し、校内平均点が全国平均点を上回るような学習指導を行う。	A	A	A
		4・5年生の週末講座等を利用して進研模試の事前事後の指導を年3回行い、生徒に具体的な目標を設定させる。	A		
		後期課程において生徒の進路に応じた課外講習を設定し、計画的に実施する。	A		
	生徒の進路実現に向け、情報を共有する。	前期課程において、スタディ・レポートを毎日発行し、生徒の学習習慣と生活リズムを把握し、個々に応じた指導を行う。	A		
		模試成績についての情報提供を速やかに行い、学年・教科で検討できる環境を整える。	B		
		週1回進路指導部会を行い、情報の交換とノウハウの伝達を密に行い、その内容を教職員で共有できるようにする。	A		
保健環境部	心身ともに健康な学校生活を送ることができる。	学年PTAの場で、生徒の学習課題、模試成績、進路情報についての情報提供を年2回以上行う。	A	A	A
		6年生個々の生徒について、進路志望と模試成績、センター成績について意見交換できる検討会を年2回実施する。また、成果と課題を報告する機会を設ける。	A		
		健康の自己管理能力の向上と、心の健康度が良好な生徒の育成を図る。 学校保健計画により6年間を見とおした保健指導を行うことによって生徒の生活習慣の改善や心身の健康の保持増進を図る。 心の問題を抱える生徒の早期発見・早期対応に努める。 学年と連携して、生徒の実態把握・情報交換を密にする。	A		
	安全で安心な学校生活を送ることができる。	前期課程での学校給食について、食育についての理解を深め食に関する指導の充実を図る。 ・給食残量調査を実施し、食に関する関心を高める。	A		
		安全についての知識・技能を習得し、日常における様々な危険に対して、適切な判断・行動ができるような実践的な態度や能力を育成する。 地震及び火災発生を想定し避難訓練を年1回実施する。 校内の安全管理に留意し、事故やけがの防止に努める。	A		
		校舎の安全点検を年3回実施する。	A		
国語科	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。	【1～2年】 ①「書く」内容(課題作文や読解の記述問題等)を重点的に指導する ②漢字検定への積極的な取組。辞書を活用した語彙力の増長。	A	A	A
		【3年】 ①演習教材の活用による論説文の読解指導等を行う(週末課題、長期休業講習)。 ②「書く」・「話す」力を伸ばすために、作文・レポート発表の機会を持つ。	A		
	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。	【4年】 ①各種レポートの提出を行う。 ②漢字・語句等の小テストを行う。 ③古典文法・漢文句形の小テストを行う。	B		
		【5年】 ①読書レポートの提出を行う。 ②漢字・語彙・文法等に関する小テストを実施する。 ③小論文模試・小論文講習会を行う。	A		
	社会問題に関心を持ち社会科学的思考力を身	【6年】 ①放課後講習・長期休暇特別講習・受験直前講習を年間をとおり、実施する。 ②センター試験国語(現代文のみ解答を除く)の校内平均得点率が全国平均の1.1倍を超えるよう継続的な指導をする。	A		
		地歴・公民各教科の繋がりを意識させ、授業において新聞を月1回以上活用して、国内や世界で起きている様々な事象の原因	B		

社会科学	につけさせ、問題解決能力の育成を図る。	について考察し、グローバルな視点を構築できるようにする。 進路目標実現のために朝テストや放課後補習等を行い、センター試験や二次試験等に対応できる力を身につけさせるとともにセンター試験では全国平均点以上を目指す。	B	B
数学科	基礎学力の定着を図り大学入試に向けた実力を育成する。	少人数クラスのメリットを活かし、きめ細かくわかりやすい授業を行う。	A	A
		数学検定において1, 2, 3学年でそれぞれ5級, 4級, 3級の取得を目標に受検を勧め、受験率を85%以上にする。	A	
		年3回、ベネッセ模試の学習内要にあわせて既習内容の復習を行い、発展・応用力の育成を図る。	A	
		家庭学習の習慣化と授業内容の定着させるために週1回以上適宜課題を課し、提出率80%以上をめざす。	A	
理科	論理的な思考力に基づき、理科の現象について理解できる力を育成する。	高大連携あるいはこれにかわるものについて、事業の継続発展のため、年4回授業を行う。	A	A
		実験や演示を取り入れ、興味・関心を引き出し、理解を深める。演習を効果的にを行い、学習内容の定着を図る。	A	
		論理的な思考力の育成の結果として、センター試験や個別入試問題に対応できる学力を養成する。その目安としてセンター試験が全国平均点を越えるように指導する。	B	
英語科	英語が使える生徒を育成する。	6ヵ年指導計画に基づき一貫した段階的指導を行う。	A	A
		CAN-DOリストによる学習到達目標の明示と評価を行う。	A	
		ICTを活用し、生徒の理解を助ける授業を行う。	A	
		様々な事柄に対し、授業を通して問題意識を持たせ、解決する思考力を育てる	A	
音楽科	表現できる力を身に付ける。	歌や音楽のテストを1~2ヶ月に1回実施する。	B	A
		有名な演奏家等の映像や鑑賞をさせて、感じる力を育てる。	A	
美術科	作品をつくり、鑑賞する面白さを体験させる機会をつくる。	デザイン、色彩、用具の扱いなどの基礎的な力を身に付けさせるための実習を行う。	A	A
		作品のアイデアをたくさん出させ、発想力を高める。	A	
保健体育科	基礎体力の向上を図り、健やかな身体を育成する。	毎時間ランニング、学校体操等の準備運動を行う。	A	A
		年1回体力テストを行い、各学年で全国平均点を上回るようにする。	B	
		計画的に保健や体育理論の授業を行い、運動・健康に関する知識を深める。	A	
技術家庭科	身近な生活の中で生かされる技術を身に付け	ものづくりの機会を多くつくる。	A	A
		快適な生活を送るための意識を高める。	A	
		調理実習を年間4回実施する。	A	
情報	情報活用能力を育成する。	授業時数の半分以上を実習とし、コンピュータの基本操作を身に付ける。	A	A
		パワーポイントを使用したプレゼンテーションの実施、評価を行う。	A	
		事例集を使用し、情報モラルを身に付ける。	A	
1学年部	学習面では基礎学力の習得と向上を図る。生活面では生活習慣の確立を図る。あわせて中等生としての自覚を促す。	スタレポや課題提出を班ごとにcheck、学習習慣・生活習慣の確立を図る。	A	A
		平日2時間以上、休日3時間以上の自主学習時間を設定する。	A	
		学校行事や学年行事等に積極的に取り組む体制をつくる。	A	
		校外学習をとおして、各自が主体的、積極的に行動し、学習内容をまとめ、発表できる。	A	
2学年部	学力面においては基礎学力の習得と向上を図る。生活面においては挨拶、時間意識、コミュニケーション力を中心とした社会性の向上を図る。	すべての生徒が学習に向き合えるように手厚く支援するとともに、生徒の学習意欲を高める授業と課題の提示を行う。	A	A
		学校行事や学年行事等に意欲的に取り組めるよう学年・学級経営を行う。	A	
		職場体験、修学旅行では、各自が主体的かつ積極的に計画を立てて行動する生徒を育てる。	A	
		積極的な挨拶、時間や期限を守る、コミュニケーション力の向	A	

		上を図る指導を継続して行う。			
3 学 年 部	本校中堅学年・前期最 高学年としての意識を 涵養する。 大学進学に対する意識 を高め、更なる学力の 向上を図る。	大学訪問や放課後学習などを行い、学習への意識を高め、学力の向上を実現する。	A		
		進路講演会や後期課程進学説明会を行い、翌年からの学習の進め方を指導する。	A		
		前期課程修了時に試験を実施し、生徒の自己学力診断の一助とする。	A	A	A
4 学 年 部	後期課程のスタートを スムーズに行う。 海外研修を通して、積 極性や国際感覚を養 う。	授業第一を掲げ、基礎学力の充実を目指す。家庭学習のさらなる習慣化を図る。週末課題の提出を確実に行わせる。	B		
		各種模擬試験や週末講座、長期休業中の講習を活用して、大学入試に向けた実践力を育成する。	A		
		手帳を常時活用させ自律的に生活を送るようにさせる。個々の生徒の状況の把握に努める。	B		
		進路講演会の開催や、大学説明会への参加を通して進路意識の向上を図る。また、綿密な進路面談を通して、積極的な文理選択の支援をし、目標を明確にさせる。	A	A	A
		海外研修を通して異文化を理解し、英語を活用する力の向上を図る。	A		
		各種学校行事で、後期生にふさわしい自主性の育成を図る。	A		
5 学 年 部	授業を大切にさせ、基 礎力・実践力ともにそ なえた確実な学力を養 成する。 進路志望を明確にさ せ、卒業までの展望を 持って計画的に過ごさ せる。	授業第一を掲げ、基礎力の定着を図る。	A		
		各種模擬試験や週末講座、長期休業中の講習を活用して、実践力を育成する。	A		
		各種学校行事で協調性とリーダーシップの育成を図る。	A	A	A
		早期に進路志望を明確にさせるため、教育相談を通じて生徒個々の希望や特性を把握し、相談に応じる。また学年集会を通じて時期に応じた進学準備を指導する。	A		
6 学 年 部	最上学年としての自覚 を持たせ下級生の手本 となり得る人格の形成 現役進路志望達成のた め学力の養成を図る。	飛燕祭・全校ウォークなどでのリーダーシップを育成する。	A		
		保護者を含め、進学指導や面談・説明会を行い、志望を育て強固なものにする。保護者面談の開催（8月、12月、1月） 進学講演会の開催（保護者対象・生徒対象）	A	A	A
		学年だよりでの情報提供（年10回）と、現役合格を諦めさせない学習支援・指導を行う。	A		
		講習（放課後、長期休業、特編）での継続的指導をおこなう。	A		
そ の 他	情報の積極的な発信を 図る 家庭や地域との連携を 図り充実した教育活動 を展開する。  正しい知識に基づき、 偏見を排除する精神を 養う。（「人権・同和 問題についての正しい 知識と、差別を許さな い信念を育成」）	ホームページの内容を週1回以上は更新する。	A		
		学校だよりを毎月1回は発行する。	A		
		学校行事への保護者・地域住民の参加が前年度の数値を上回る	A	A	
		家庭や地域との連携行事を学期に1回以上開催する。	A		
		「生きる」の活用や各教科において同和問題を中核とした人権の学習を行う。（人権教育、同和教育強調週間で「生きる」を用いた授業を1回以上実施する。） 一人一人を尊重する学級経営を推進し、人権意識を高める。教科学習や講演会等を利用し、人権意識を高める。	A	A	A
成果と課題			○=成果 ●=課題		総合評価
○ほとんどの項目でA評価であった。					A
●生徒の健全な育成や希望進路実現のために、各部・各科・各学年部等での成果と課題を受けて、来年度以降さらに改善していく。					